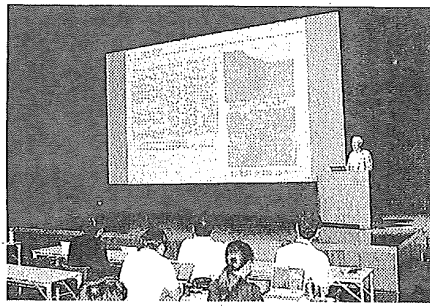


アーチ特性に着目

整備局、道路橋石橋
定期点検の講習会

九州地方整備局は6日、福岡市の電気ビルみらいホールで、九州橋梁・構造工学研究会と建設コンサルタンツ協会九州支部との共催による「道路橋石橋の定期点検に関する講習会」を開いた。写真。オンライン参加を含めて約900人が参加した。



冒頭、同局の三保木悦幸道路部長は「今回の講習会が皆さんの今後の石橋点検の参考になると期待している」とあいさつした。

全国に2400橋近くある道路橋石橋の5割強が九州に存在し、その9割弱を市町村が管理している。材料などの

特殊性から具体的な点検の考え方が示されておらず、石橋を管理する九州の自治体から技術的支援を求める声が上がっていた。こうしたニーズを踏まえ、同局は2020年度に有識者による委員会を設置し、道路橋石橋（石造アーチ橋）の構造特性や定期点検・健全性診断の留意点などをまとめた「参考資料」を今年3月に策定した。

講習会では、有識者委員会の委員長を務めた山尾敏孝熊本大名誉教授が石造アーチ橋の構造特性と九州の道路橋石橋の現状を説明した。山尾教授は「石橋は小さなひび割れや隙間があることを頭に入れた上で、アーチ特性が発揮できているかどうかを着目する必要がある」とした。さらに、健全性の診断について「次回定期点検までの状態の変化の可能性やその程度、予防的措置を行う合理性を加味してほしい」と呼び掛けた。

この後、猪狩名人九州道路メンテナンスセンター長が「道路橋石橋の定期点検の留意事項」を説明し、建設コンサルタンツ協会九州支部の藤本圭太郎氏が「道路橋石橋の定期点検に関する参考資料に基づいた定期点検事例」を紹介した。